

桐生西ロータリークラブ週報



2013-14年度RIテーマ **ロンD.バートンRI会長**

ENGAGE ROTARY CHANGE LIVES **ロータリーを實踐し みんなに豊かな人生を**

例会日時 毎週金曜日 12:30 ~ 13:30
 例会場・事務所 桐生市堤町3-5-23 桐生プリオパレス
 TEL 0277-22-9155 ・ FAX 0277-44-2777
 Eメール kiryu-nishi@rid2840.jp URL http://www.rid2840.jp/kiryu-nishi

会長 阿左美博 広報活動委員長 家住慧路 広報活動委員
 幹事 高森 勉 クラブ会報・雑誌担当 金子福松 根本正則・船戸義澄
 羽鳥 隆(歴史編集・IT・CICO担当)

No. 1929

2014年2月14日発行

第2048例会 (2014・2・7) 報告

- | | |
|--------------|--------------------------------------|
| 1. 点 鐘 | 7. 幹事報告 |
| 2. 国歌斉唱 | 8. 食 事 |
| 3. 四つのテストソング | 9. 委員会報告 |
| 4. 来訪者紹介 | 10. 卓 話 桐生倶楽部重要文化財特別委員会
委員長 大西康之様 |
| 5. 米山奨学金贈呈 | 11. 点 鐘 例会終了後定例理事会開催 |
| 6. 会長報告 | |

◆ピジター

桐生倶楽部重要文化財特別委員会 委員長 大西 康之様
 地区幹事 (桐生RC・卓話者紹介) 松島 宏明君
 米山奨学生 王蒙 懿さん

◆米山奨学金贈呈

米山奨学生
王蒙 懿さん

2月分の米山奨学金
を贈呈しました。



豚挽肉の胡麻風味ソース、白飯、香の物、レモンゼリー

◆委員会報告 □クラブ運営委員会

◇出席報告 新木出席担当
 総数51名 (免除者9名の内7名出席の為2名を除く)
 出席率対象者49名、出席率対象者出席人数40名
 欠席者9名(内前メイク1名) 出席率83.67%
 前々例会修正出席率83.33% (最終欠席者8名)

□拠金委員会

◇ニコニコBOX 七五三木拠金委員
 卓話でお世話になります 地区幹事・松島君
 大西様と松島様をお迎えて 高森君、七五三木君
 大西様、卓話ありがとうございます

阿左美君、坪井君、家住君、奥村君、
向田君、船戸君、栗原(幸)君

大西さん8年前の卓話ではお世話になりました 石川君
 娘が嫁ぎました 松原君
 長期欠席申し訳ありません 下山君
 ソチ五輪開幕です。「君が代」を沢山聴きたいですね 野田君

◇ロータリー財団

大西様と松島様をお迎えて 高森君、七五三木君
 大西様、卓話楽しみにしています

坪井君、霜村君、向田君、松原君、
乾君、船戸君、奥村君

寒い日が続く様です。風邪をひかない様に 阿左美君
 長期欠席申し訳ありません 下山君

◆米山BOX

大西様と松島様をお迎えて 高森君
 大西様、卓話ありがとうございます 坪井君、霜村君、
向田君、松原君、野田君、船戸君

大西様お久しぶりです 中野君
 王さん割烹着を着て勉強頑張ってください 奥村君

ソチオリンピックが始まりました。楽しみです
 阿左美君、乾君

長期欠席申し訳ありません 下山君

◆会長報告

阿左美会長

1. 本日、各テーブルにローターアクトニュースが配布されております。地区のローターアクトの活発な活動の様子が紹介されています。先々週の例会に、桐生西RACの杉澤会長がご案内に来ていただきました「ローターアクトと行く絹の旅」の申込締切が本日です。皆様の参加申込を宜しくお願い致します。

◆幹事報告

高森幹事

◇本日例会終了後、1F和室で理事会を行います。
 ◇ロータリーの友2月号を配布致しました。
 ◇ガバナー月信2月号が配信されました。(各テーブルに配布)
 ◇武井善作会員よりニューモラルNo.534を15部戴きました。
 ◇ロータリー財団とロータリー米山記念奨学会の確定申告用領収証一式を該当者に配布致しました。

◇例会変更のお知らせ

前橋南RC 2/12 前橋中央RC 2/19
 前橋RC 2/25 高崎東RC 2/20
 安中RC 2/11(休)、2/25 碓氷安中RC 2/20

◇クラブ会報が到着しています

桐生RC 2/3 桐生中央RC 1/30 桐生南RC 1/22、1/29

◆食事メニュー

1235キロカロリー

鮪のユッケ、鶏のフリットブラックビーンズソース、八宝菜、

□会 計

小林(恵)会計

ロータリー財団と米山寄附金の領収証並びに関係書類をロータリーの友誌に挟んで、皆様にお配りしました。2月16日から始まります確定申告の際に使う為の書類です。寄附金控除は、税額控除と所得控除の2つのやり方がありますので、有利な方を選択して下さい。

ロータリー財団は、領収証が殆どの方に2枚いっていると思いますが、その合計額になります。その領収証の前に『税額控除に係わる証明書』が綴じ込んでありますが、税額控除を使う場合はこの証明書も必要になります。

また、米山につきましては、普通寄附金と特別寄附金が別々の領収証になっています。各々とも1枚の用紙で上の部分が『税額控除に係わる証明書』に、下の部分が領収証になっておりますので、切り離さずにこのまま添付して下さい。また、普通寄附金についての取扱説明も添付してありますので、ご参照下さい。

□広報活動委員会

◇クラブ会報・雑誌

金子ケイ 会報・雑誌担当

ロータリーの友2月号について解説いたします。

まず、表紙ですが、横組みの方は、赤穂RC・八幡沼海会員の「白峰雪だるままつり」の写真が、縦組みの方は、松江しんじ湖RC・石倉貞昭会員の「若武者」で武者行列のポスター製作時の写真です。詳細は縦組み33頁に掲載されています。また、次年度の友誌の表紙の写真を募集しています。要項は横組み48頁に載っていますので、是非応募して下さい。

本文に移ります。横組みでは、3頁にR I 指定記事「R I 会長メッセージ～ポール・ハリスの夢を映す国際大会～」として、国際大会の参加を呼び掛けています。また、今月は世界理解月間ですので、7頁から特集を組んでいます。同頁の下にロータリーの新しいロゴが載っていますのでご覧下さい。8～12頁には『平和への願い』として、前R I 会長の田中作次氏の体験談を紹介しています。それから22～27頁には、よく会員から寄せられる人頭分担金についての質問と、その答えが掲載されています。36頁には2013年4月の規定審議会で改訂された内容が一部紹介されている他、新しい手続要覧(只今印刷中)についても書かれています。39～46頁はR I 指定記事でロータリー入門・ポリオ撲滅についてです。この部分だけ外して保管できる様になっています。この様な特集は11月号にも載っておりまして、今後は5月号に掲載される予定です。

次に縦組みですが、4～8頁に2530地区内IMの講演要旨『平和』が紹介されています。識字教育の重要性について述べています。9～12頁は「わがまち……そしてロータリー」で、今回は福岡市です。13頁からは「友愛の広場」で会員皆様の投稿の頁です。その中で17頁に前橋東RCの近藤日出夫会員の文章が紹介されています。18頁から「卓話の泉」が、20～21頁は俳壇・歌壇・柳壇、22～30頁は「ロータリーアットワーク」で、投稿された各会員・各クラブの個性溢れる意見や活動を紹介しています。

どうぞ皆様、ゆっくりお読み下さい。

理事會報告 2月7日

1. 新規米山奨学生の世話クラブに応募する。
2. 館林東RC創立30周年記念式典は会長幹事名で登録する。
3. 4月11日(金)の例会を変更して、13日(日)に家族会春の行事を実施する。
4. さよなら例会は一泊で行う。

卓

話



桐生倶楽部
重要文化財特別委員会
委員長

大西康之様

「桐生倶楽部創造の熱意と心」

桐生倶楽部は、もう95年も前の大正8年に作られています。

桐生倶楽部は、桐生懇話会という織物関係の人達によって、郷土桐生の発展を期して、明治33年に作られた会から生まれました。

その時の会員名簿と思われるものを見ると40名で、その記事によれば、その75%が織物業者であると書かれていました。しかし、後の25%の10人の内容を見ると、織物学校の教員が4人と書いてありましたが、この織物学校教員というだけでも織物関係者といえると思います。それでもという人には、更に申し上げますが、その内の一人金子竹太郎氏は、その後、模範工場両毛製織社長となり、桐生倶楽部の初代理事長になっています。もう一人の前原悠一郎氏は、この後、日本絹襪株式会社の社長になり、桐生倶楽部初代副理事長になっています。その他、銀行員が2人、呉服商が2人です。これで8人です。

呉服商はともかく、銀行員は織物関係者でないというかもしれません。しかし、その銀行員の内一人は、館林から桐生に銀行の本店を持ってきて、その専務に早稲田出身の秋田氏を起用しましたが、その秋田氏と銀行を桐生に引っ張った桐生の織物関係者で、懇話会を作る相談をしたのですから、銀行員といっても、織物関係の人と言えます。

この銀行員を織物関係者と見れば、織物関係以外とははっきりわかる人は、質屋と乾物商が一人ずつだけでした。その内、質屋は但し書きに、織物協同組合顧問役と書いてありますし、乾物屋さんも従業員を含めた織物関係者が得意先ですから、いわばほぼ100%織物関係者で作られていたといえると思います。

そういう人達の中で大正4年1月、桐生倶楽部設立案が出て、大正5年にその織物業者の中心 森宗作氏が5,000円を現金で寄付して、その後、120人位の人が寄付し、それを元に借入も起こし、大正5年に設計図が出来て、建設を決め、大正8年12月に出来たのです。

私は、桐生倶楽部は絹産業遺産だと思いますが、どうでしょうか。ところが今、桐生市でも県でも、絹産業遺産にしてくれていません。絹産業遺産でなくて何なのでしょう。それを証明するため、桐生倶楽部が作られた頃の桐生の絹産業に関係する人達の情熱と心を見たいと思います。

先ほど申し上げた桐生倶楽部建設にいたる決定的な出来事である森宗作氏が寄付した時の文章が残っています。

「近来、桐生人士が全ての会合に喜んで多数の出席を見るは、すこぶる美風を増進する物の如し。これは先輩諸君の誘導そのよろしきを得たるの賜物と深く信じて疑わざる処なり、この機会を善用して、より以上の発展に資せられんことを望んで止まず、・・回顧すれば、懇話会の企画せる倶楽部(公会堂)設立も宿題となり、新進の諸氏が希望せる中学問題も無期延期の恐れあり、桐生今日の状態に照らしこれが成立を見ざるは、能はざるにあらずして、或いは、成さざるの責め

に帰する処なきを疑う。全町の有志諸君に更にひとつの労を期待する。……倶楽部の如き比較的巨額を要する・・事業においては、特に有志の助力を要せざるを得ず、一人懇話会の努力に委せず、全町の有志諸君の一大奮発に依り、速成せしめんことを願う。不肖、死没の場合に於いて、若干金を公共事業に遺贈せんとおもしろいことあり。今日情に考慮するに、これは迂遠の計にして寧ろ生存中抛出してもってこれが資に供する優れるに若かざることを確念し、諸君の一考を煩わさんとする所以なり、可否可然御垂教あらんことを。一金 五千円 桐生倶楽部設置費」と書かれています。

五千円は最初考えられた建物建設費2万5千円の内の5分の1のようで、実際の報告を見ると建物建設費は3万5千円掛かったと書いてあります。さらに室内装飾費1万1千5百円とありまして、もの凄い室内調度品があったんですね。

当時、この建設に関して「どうせ足りない予算なら、裸になって出しても良いから、良い方の設計でやろうじゃないか」と、書上さんも張り切っていたと書かれています。これは桐生倶楽部50年史から拾ったものですが、その50年史を見ると、それ以前から桐生懇話会は、商工案内1500部、桐生停車場改築運動、通信機関の設置、電話設置、電力問題などの問題課題の解決のために働いていました。その他、撞球場の設置、商工会議所の設置なども議論されていました。更に新しく作る会社の人事なども相談したのではないのでしょうか。

そして、財団法人桐生倶楽部をも作ったのです。

桐生倶楽部を作った人達は、翌年大正9年には敷地内に桐葉軒という洋食レストランを作っています。築地精養軒の応援を得て、銀の食器、シェフ、タキシードの給仕と、本格的なレストランで、例えばクリスマスの七面鳥など、大正9年に桐生で本格的な洋食が食べられていたのですから凄いですね。

これで思い出すのは、先頃亡くなった小池久雄さんですが、小池さんは仲町で飲むのと同じように、ニューヨークでもはしごをしていたそうです。桐生の人にはこんなエピソードがまだありますが、桐生織物が世界中隈無く売られているのは、桐生倶楽部で世界に通ずる人を育てたという事情によるといえると、私は思っています。

更に、この50年史から、建設当時の人達の事を拾い上げてみますと、当時、桐生高等工業学校も近く開校の運びとなったことが契機というほかに、桐生倶楽部設立の動機について、桐生出身者で上京勉強した者が、帰郷して郷里のために働く者が少なくなり、殆どが他出してしまう事に対して、何か事業を起こしたり、集会して、互いに楽しみに研鑽を積む所が必要だと考えられた事も、倶楽部設立の動機の一つをなしていたといえます。「両毛製織、日本絹襪、桐生機械などの会社も、こうした目的で桐生振興のために設立されたものであった。」と書かれています。書上さん本人の言葉で、「高等工業ばかりじゃないんです。桐生の相当の家庭の師弟であった金子竹太郎、前原悠一郎、前原準一郎諸氏が、蔵前を出てきたが、こういう人達を放っておけば、必ずや中央に出て行ってしまうだろう。桐生の産業発展のために、あの人達の足を桐生に留めなければならぬというので、桐生の有志の諸君が、両毛製織や桐生機械などを建てたんですね。」と述べています。書上さんはその他にも、「倶楽部の具体的問題になりまされども、集まって相談する所がないんですね。料亭より他になく、行けば一杯飲まないわけにはいかない。高等工業の場合にしても、女学校の問題にしても、教育問題を議するのに、芸者を呼ぶような席上で相談をするということは、はなはだ面白くない。それには社交倶楽部を建てたらどうかという案が、その時、森

宗作氏から出たんです。それは結構だというので、やろうということになりました。」と述べています。「この場所も森さんの意見から出たんです。桐生駅から人力車で行くと本町通りから一丁目に向かうわけだが、そこから今泉の竹やぶが見える。いかにも桐生が田舎町らしく見える。だから目隠しにもなるからここを選んだ。」と述べています。本当に町の人達の力で出来た事がわかるエピソードです。凄いですね。こうした行動について森宗作氏は、また別に、「郷土の発展はやがて自己の発展である。」と述べています。

今度の絹産業遺産の中で特に残念なのは、日本絹襪です。日本絹襪は国策会社で、大正時代まで模範工場といわれたこの工場は、最初の10倍も大きく育て、富岡製糸より巨大でしたが、戦時中に軍部から接收されて、取り上げられ、戻れず、そのまま崩れてしまいました。今はその事務所棟だけ残す事ができました。

この時代ですから、桐生倶楽部も日本の軍部からの接收の強い圧力が掛かりましたが、徹底してこれを拒み通しました。また、その建物の特異性から、占領下でも戦勝国の接收の力が掛かりましたが、これも徹底して接收を拒んだ事が伝わっています。どちらも通常断れない事でしたが、もし接收されていたら、今の桐生倶楽部もその伝統もなかったと思われる。

作った人々の強い思いが伝わっていて、それで恐ろしい接收をも拒んだのだと思います。しかし、七宝の飾りのついたシャンデリア、伝説の銅鑼、ドアのノブまで、調度品を持ち去られたと残念がっています。

それから、桐生倶楽部の建物そのもののことですが、この建物を設計施工した人は、清水巖という今の清水建設にいた設計者で、桐生倶楽部を契機に独立したということです。当時、ニューヨークの山中商会主催の日米共同住宅設計コンクールの第1等当選者で、講談社の野間清治社長からの紹介だったという事です。

もし、清水建設という会社の仕事になっていたら、国の重要文化財になっていたと思えますが、設計監督者が清水建設を離れたために、個人的な建築物にされてしまったと、残念な気持ちもしています。

この建物の様式は「スパニッシュ・コロニアル様式」で、元々はスペインが植民地の租界（コロニアル）に建てたスペインの力を示した建物です。スペインの租界のない中国の上海にも幾つか見られた、いわゆるコロニアル様式の代表的な建築様式です。それが大正4・5年頃からアメリカで住宅として宣伝され流行し始めた建物でした。大正5年には桐生倶楽部として設計されて、大正8年には出来ていて、殆どアメリカと同時に始まった日本で最初のスパニッシュ・コロニアル様式の建築物なのです。

この事が重要と思われるのですが、アメリカと同時に始まった清水巖の言うヨーロッパスタイルの建物が、どうして桐生の人達に認められたかを考えると、アメリカで流行する以前から、桐生の人達は、上海などの実際の租界で、その建物を見て憧れのような気持ちを抱いていたからではないかと、私は思います。

そうでなければ、見て直ぐ賛成したという気持ちを理解する事はできません。この建物を認めたのは、私は当時の桐生人の凄さだと思います。

その後、今に至る桐生倶楽部に代表されるスパニッシュ・コロニアル様式の膨大な数の建物が日本に作られたのは、多くの日本の各界の著名人が、桐生倶楽部で休憩し食事を楽しみ講演された、そういう人達を通じて大きな影響を与えたと、自負したいと思います。

その元となった桐生倶楽部は、極めて大切な国の重要な文化財だと私には思えるのです。そして、この桐生倶楽部は国の重要文化財になる値打ちがあると言った人がいるのです。

桐生には相生の旧群馬県医学校・衛生所と彦部屋敷の2つの国の重要文化財、そして、県の文化財になって天満宮があります。この3つ全ての根本修理に来ていた文化庁の外郭団体で建造物修理保存協会の責任者の秋山さんが、桐生倶楽部は国の重要文化財になる値打ちがあると、桐生市の文化財担当者に言っているということでした。その秋山さんが木造建築は100年をめどに改築を考えるべきだと言われたのです。

また、富岡製糸場と絹産業遺産群という世界遺産への運動での桐生倶楽部の大切さです。桐生の本町一二丁目の重要伝統的建造物群保存地区と共に、桐生倶楽部の重要文化財への運動を連動させて、それがあってこそ、群馬の絹産業遺産群だと考えられます。それこそ、桐生倶楽部の重要文化財への運動は、世界遺産に連動する大切なことだと思えます。

それは、桐生と絹を考えれば、群馬において歴史的にも、桐生こそ絹織物産業の中心で、その始まりでもあり、それが今に続く場所としても最大であるわけです。その運動の中心にいない方がおかしいのではないのでしょうか。

桐生では文化財保護課は少し頑張っていて、絹撚事務所も残りました。また、群馬県が出している『ぐんま発見、絹遺産』という冊子に、78が絹遺産として載っていますが、その内の18が桐生です。他の市町村に比べて圧倒的に多く1番です。特に東毛地区では20の内18が桐生なのです。

しかし、無念な事に、桐生倶楽部はこの冊子の78の中に出てきません。絹産業遺産として桐生市の役に立つのに、何で桐生倶楽部を桐生市は大事にしないのでしょうか。

明治時代、桐生の織物関係の3大工場といわれた日本絹撚、両毛製織、桐生機械は、今は、両毛製織はなく、織機を作っていた桐生機械も今その跡は残らず、足利に移ってしまっています。日本絹撚は残念にも事務所しか残っていません。

それでも、今の桐生では、本町一二丁目の伝統的建造物群保存地区と桐生倶楽部の重要文化財が合わさって、絹産業遺産都市『桐生』の魅力をはっきり分らせる事が出来ると思うのです。

先ず、桐生市の文化財にして、あと4年に迫った100周年にあわせて群馬県の文化財への運動を進めようということ。そして、国の重要文化財になるには、富岡製糸場の絹遺産群と関連できれば可能性は強まると考えられます。

皆さんに、桐生の町を作った人達の話と桐生倶楽部の話をさせて頂きましたが、それは皆さんに桐生倶楽部を一緒に大切にしていたら良かったからです。

申し上げましたように今日の話の殆どは、桐生倶楽部50年史から拾い出しておりますが、50年時の理事長は川村佐助氏で、記念誌に「こんな立派な会館を持つ倶楽部は、地方都市には皆無といってよい現状で、50年もの歴史を持ち、しかも現代人にすら誇りうるこの会館を、建ててくれた先人先覚者に対して、私はどうしても守り通さなければならないという強い信念に燃えたのである。大きく言えば、やがては『日本の貴重建造物』の一つにもなりかねない倶楽部会館を持つのが桐生倶楽部は、倶楽部を作り会館を建ててくれた先人諸先輩の霊に対し、大きな感謝を表すると同時に明確にするためにも、この会館を護り栄光あらしめる。」と述べています。

今、更にそれから50年が経って、私達は実際に今後の責任を果たす立場となっています。お話しをお聞きいただきました皆様に、共に支えていただけるよう、桐生倶楽部の安定のために、ご参加ご協力をいただければ有難いと存じます。宜しくお願い致します。

ロータリーと故ネルソン・マンデラ氏



子どもにポリオ予防接種をする故マンデラ氏

1996年、ナイジェリアを始めとするアフリカ諸国では、ポリオの予防接種が重要視されていませんでした。

他にあった多くの保健問題や、資金不足から、ポリオ撲滅は国家的な課題としてとらえられておらず、アフリカでのポリオ撲滅活動には、強力な推進者が必要とされていたのです。

そこで、1995-96年度R I会長ハーブ・ブラウン氏が協力をお願いしたのが、今は亡きネルソン・マンデラ氏でした。

マンデラ氏は、「投獄中にも、私はロータリーが行っていた活動について知っていました」と答え、後にブラウン氏と共に臨んだ記者会見で、全国予防接種日の実施に協力するよう、アフリカ諸国の元首に呼びかけました。

マンデラ氏はさらに、1996-97年度、当時のルイス・ジアイR I会長とラジェンドラ・サブール・ロータリー財団管理委員長とともに、「キックアウト・ポリオ」キャンペーンの立ち上げを支援しました。このキャンペーンは、サッカー試合でポリオ撲滅のアピールを行ったり、有名人が撲滅の公共広告に登場したりすることで、一般の人々のポリオ予防接種に認識を高め、その結果、30を超えるアフリカ諸国で、初の全国予防接種日が実現しました。

ロータリーは1997年、マンデラ氏の大きな貢献に感謝し、当時ロータリーからの荣誉としては最高のものであった、「ロータリー国際理解と平和賞」を贈りました。

受賞に際してマンデラ氏は、「この賞を南アフリカの人々にささげます。ロータリーのポリオ撲滅の取り組みは、世界の人々が子供たちを救うために知恵と力を結集すれば、どんなに大きなことが達成できるかを示しています」と述べました。

マンデラ氏は、この賞の賞金10万ドルを、「ネルソン・マンデラ児童基金」の設立に投じました。

南アフリカのロータリー会員は、亡きネルソン・マンデラ氏を、「20世紀最大の自由・平等の支援者の一人」に数えるとともに、「南アフリカの父」、「奉仕のリーダー」と称えています。(RIウェブサイトより一部抜粋)

医療法人社団 東郷会 恵愛堂病院

理事長・院長 東郷 庸史

みどり市大間々町大間々504-6

TEL 0277-73-2211

《次例会予告》

2月21日(金) 第2050回記念例会

記念卓話 星野幸男パスト会長